

令和6年度第2回小諸市総合教育会議議事録（概要）

日時：令和6年12月18日（水）午後4時から午後5時

場所：小諸市役所3階 第1会議室

出席者：市長 小泉 俊博

教育長 山下 千鶴子

教育長職務代理者 矢嶋 真

教育委員 田中 隆之

教育委員 小山 真紀

教育委員 塩川 侑佳

進行：柳澤総務部長

事務局：安藤教育次長、高柳主幹指導主事、依田人権政策課長、有賀文化財・生涯学習課長、小林企画課長、渡辺スポーツ振興係長、高橋学校教育係長、三井企画調整係長、企画調整係員

議事内容

1 開会

2 あいさつ

（小泉市長）

皆さんこんにちは、市長の小泉でございます。

平素は、小諸市の教育行政の推進に多大なご尽力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

また、本日は、小諸市総合教育会議を開催しましたところ、12月のたいへんご多用のところ、ご出席をいただき誠にありがとうございます。

さて、現在開会中の12月議会においても審議いただいておりますが、本市の第12次基本計画の大きな柱の一つであります「子育て・教育」につきましては、社会情勢の変化にとらわれず、こどもたちが自らの課題を見つけ、自ら学び、考え、判断して行動できるよう「生きる力」を育むために、豊かな心と健やかな身体の育成・基礎学力の向上等に取り組み、その学びを支える教育環境の整備に向け、教育委員会とともに、施策の推進を図っていくこととしております。

前回9月に開催しました総合教育会議におきまして、今後の小諸市の義務教育の根幹となる「小諸市小中一貫教育推進基本方針について」を議題とさせていただき、皆様より積極的なご発言をいただくなかで、義務教育学校を目指してい

くということで方向性を確認させていただきました。その後、教育委員会において「小諸市小中一貫教育ビジョン」を策定いただき、このビジョンに沿って学校づくりを進めていただいているところでございます。

小諸市が持続可能なまちであり続けるために、「人口動態における自然増への挑戦」を掲げていますが、自然増とするためには、若いファミリー層世代に安心して子どもを産み、育てていただくことや、さらに教育の充実を図ることが重要となります。そして、市内外の方々から小諸が「選ばれるまち」、「魅力があり、価値を生み出すまち」であるためには、まずは、「教育」が「健康で健全」であることが不可欠だと考えています。

今年の出生数は、70 万人を下回ることがほぼ確定となっています。急速に進む少子高齢化などの社会情勢やライフスタイルの変化など、子どもたちを取り巻く環境は刻々と変化しており、教育現場を取り巻く情勢も日々変化を強いられています。

こうした情勢を的確にとらえ、これまで培われてきた本市の教育方針をベースに、時代の変化に迅速に対応した施策を進めていく必要があると考えております。

本日の会議ですが、「小諸市教育大綱（案）」を議題とさせていただきました。この教育大綱ですが、本市の教育行政に関する目標や基本方針を定めるもので、総合教育会議における教育委員の皆さんとの協議・調整を経て市長が定めるものとなっております。既に、教育委員会内で議論されていることと思いますが、皆様におかれましては、教育に対する思いなど、忌憚のない、積極的なご発言をお願いいたしまして、開会にあたってのあいさつとさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

3 会議事項（進行：柳澤総務部長）

（１）「小諸市教育大綱（案）」について

（安藤教育次長より、資料の「第３期小諸市教育大綱（案）」「第３期小諸市教育大綱（素案）」についてのパブリックコメント等 ご意見の概要と市の考え方について」に沿って、策定経過や内容、パブリックコメント等に対する市の考え方について説明）

（柳澤総務部長）

皆様には、ご検討を積み重ねていただき、本当に思いの詰まった教育大綱（案）になっていると思います。今日は、ご出席の皆様からこの案に載っている思いについて、お話をいただければと思います。どの施策からでも結構ですので、いかがでしょうか。

(田中委員)

まず、最初に教育大綱(案)の表紙の写真がとても素晴らしいと思いました。ぜひこの写真をこのまま載せていただければと思います。

内容に関してですが、「施策2 生涯学習」のところで小山敬三・白鳥映雪・島崎藤村・高濱虚子の小諸市の誇れる偉人の説明があり、初めてこの大綱を手にとった方や例えば移住して来た方が、小諸市が文化を大切にしている市だと思ってもらえるような大綱になっていると思い嬉しく思っています。

(柳澤総務部長)

ありがとうございました。まず、この表紙の写真にお褒めのお言葉をいただきました。

(安藤教育次長)

この写真は、昨年の広報こもろの表紙を飾った写真です。市民の皆さんにも、大好評だったということを受けて、この写真を教育大綱(案)にも使いました。この写真からも、これからの未来を受け取ってもらえるようにという意味も込めて採用しました。

(柳澤総務部長)

ほかに、ご意見・ご感想はありますか。

(矢嶋教育長職務代理者)

私の感想になりますが、「施策1 学校教育」の中に「対話的・協働的な学びの実現」を明記していただけたことがとてもよかったと思います。具体的には、ペアや小グループ等で、こども同士が対話的・協働的に学び合う授業を、大事なものとしてこの教育大綱に載せてあることです。なぜかという、今から5年前の令和元年度末に、新型コロナウイルスの影響で全国一斉休校が行なわれ、教育の中身もたいへん変わりました。例えば、文科省から、教室は1人1人の間を何十センチ空け、中にはアクリル板を置いて学習しなさいという連絡もありました。その結果、個別で学習していくことが主流になり、1人1台の端末が配られて、自分で教科書を学習して個人個人でどんどん進めていく自由進度学習がそこから主流になりました。

現に、今でも自由進度学習は広がっており、私も自由進度学習の授業を見させていただきました。成績が上位のこどもたちは自分でどんどん進めていかれるのでいいのですが、授業でつまづいてしまったこどもが、自分が何につまづいてい

るか分からず、先生のところへ質問に行くことができないということもあります。市長さんが所信表明のときにおっしゃっていた「生きる力」をつけるということに本当になっているのかという疑問を持ちながら、この4年間学校訪問等をさせていただいていました。令和6年度になり、自由進度学習やっていた学級が、ペア学習で対話的・協働的な学びに切り替え始めた学級もあります。先生たちも、どの方向に進めばいいのか迷っているということを感じました。今回、小中一貫教育の中身としてぜひ先生たちがこういう方向で頑張ろうという道しるべがしっかりできていくことが大事で、この教育大綱に「対話的・協働的な学びの実現」を明記してもらえたことは、小諸市の教育の進むべき方向が先生たちにも明確になり、生きる力を身につけることに繋がるためとても意味のあるものと感じています。

(柳澤総務部長)

「施策1 学校教育」を中心にお話をいただきました。その中で特に「対話的・協働的な学びの実現」にフォーカスをしていただきました。コロナ禍の経験を経たお話もいただきましたが、皆さんいかがでしょうか。

(山下教育長)

先生方も、手探りではありますが「対話的・協働的な学びの実現」に向け進めています。このような学びに特化できる先生に来ていただき、学校一丸となって進めていきたいと思えます。市長の所信表明でもあった国語力の向上も確実に進められると自信を持っています。

(小泉市長)

「対話的・協働的な学びの実現」は、これからの小諸の教育50年100年をこれでいくということを宣言する意味で非常に重要なページです。先生方も迷っているという話もありましたが、明記をすることが大事だと思います。

前回9月の総合教育会議でも話をしましたが、江戸時代の寺子屋から始まり、一方通行の教育により様々な課題が山積してきた中で、これから子どもたちが生きる力を身に付けていくためには何が必要かという中で、ひとつのあり方として、こういう学びを実践していくということが非常に重要だと思います。

(柳澤総務部長)

それでは、ほかにはいかがでしょうか。

(塩川委員)

「施策4 スポーツ」を見たときに、写真がたくさん増えていて、活気があって元気なまちというのが本当によく伝わってきて嬉しくなりました。また、小諸市ボッチャ大会など新たに取り組みを始めた大会や、トップアスリートの指導を受けられるスポーツ教室や高地トレーニングなど特化した活動が本当にわかりやすく記載されていると思いました。

(安藤教育次長)

さきほど、写真を使ってありわかりやすいというお話をいただきましたが、言葉で書くよりも例えばボッチャというスポーツをとってみても、ボッチャを知らない方もいますので、写真をつけることによってイメージも掴みやすくなります。また、実業団の陸上競技部の選手を招聘し、こどもたちに走る楽しみを知ってもらう活動も、言葉で書く以上に写真をつけると非常に伝わりやすいことでもありますので、なるべく視覚的にイメージができる写真を意識して取り入れました。

(小泉市長)

私のところにも、全国大会に出場されるこどもたちが表敬訪問に大勢いらっしゃいます。とてもありがたいことだと思います。先日ある小学校3年生の空手の選手のお子さんが、「今まで試合でどうしても勝てなかったが、合宿に行き自分との戦いの中で練習を怠らず続けたことにより、全国大会で日本一になることができた。」という話があり、その感激や喜びはすごいと思いました。そのようなこどもが学校へ戻り、周囲のこどもたちにも良い影響が及ぼしていると思います。

(山下教育長)

新聞にも、表敬訪問に来たお子さんの自信に満ちた写真を載せてもらいました。広報活動で紹介していくことが、こどもたちの励みになるという点でも感謝です。

(柳澤総務部長)

積極的に我々もプレスリリースする機会をマスコミの皆さんに提供していきたいと思いますので、よろしくお願いします。

(小泉市長)

スポーツに限らず、文化的な活動のふるさと学習やまちじゅうに音楽があふれる「音楽のまち・こもろ」や読書活動の推進も力を入れています。小諸藤村文

学賞にも小諸商業高校の生徒さんたちが積極的に応募してきて、非常に良いエッセイを書いています。

(山下教育長)

小諸藤村文学賞は全国大会ですから、入選することは子どもたちにとって非常に自信になります。中学高校生の部は、去年に比べ 1,000 点以上応募が増えました。小諸市民と小諸市の中学校、高等学校に学ぶ生徒の優れた作品に贈られる小諸賞があるのも励みになります。

(田中委員)

「学校部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行」が、教育大綱にしっかり明記されているということに安心される方がいると思います。先ほど市長のおっしゃったように、いろいろなところで子どもたちが活躍していますが、少子化が進展しているのは事実なので、小学生や中学生の部活動をより効率的に維持してさらに活躍できるような場を、我々でしっかり確保するということが大切になると思います。

(柳澤総務部長)

学校の部活動の地域移行という話は非常に大きな問題ですが、何かご意見あります。もうすでに検討を進められてきて、令和 8 年から土日の部活を地域に移行しようという計画で今進めているということによろしいでしょうか。

(山下教育長)

来年度は実証事業のスポーツや、小学校の課外活動の音楽も地域との連携を深めて、地域の支えの中で部活動を進めていければと思います。

(小泉市長)

部活動の地域移行イコールでは必ずしもないかもしれませんが、1 年数ヶ月後には、小諸義塾高校の中に音楽科が残ります。もう少しオープンな形で、子どもたちと小諸義塾高校の音楽科の先生や生徒たちと交流ができるといいですね。小諸ならではの教育になってくると思います。

(柳澤総務部長)

ほかの施策について何かありますか。

(小山委員)

「施策5 人権同和教育」の「学校における人権同和教育」についてですが、すべての根幹にあるのが人権に対する意識だと思います。まず大人同士がお互いを尊重するということを学び合って、お子さんがいる方であれば、家庭で言葉だけでなく、生活の中で親としてこどもに見せていく。こどもたちが、自分の存在意義や自己肯定感を高めていくことを大事にしなければならないと思います。お互いに尊重し合うことはもちろん大事ですが、どうしても誰かを傷つけてしまったり、誰かに傷つけられてしまったりということがあります。自分が傷つけられたときに、それはおかしいと言えることが生きる力に繋がっていくと思います。人権同和教育に関しては内容が多岐にわたると思いますが、この教育大綱がいいきっかけとなり、多くの方が積極的に人権について学び、意識が向上していくと良いと思いました。

(柳澤総務部長)

生きていく上で一番基本になるのは、人権だというご発言であったと思います。まず大人から人権感覚を磨いていくことが大切さという発言でしたが、人権についていかがでしょうか。

(小泉市長)

まさしくさっきの「対話と協働の学び」で、やはり小学生の頃から一方通行のインプットだけでなく、アウトプットもその場でやりながら、友達や周囲の皆さんと話し合いをして、コミュニケーションがとれることは人権にとってもすごく大事だと思います。今までだと、言葉の暴力によって傷つけられても、なかなか言い返せなかったり、それをおかしいということを言えなかったりすることがこのような教育を受けると変わってくると期待しています。

それから、対話と協働の学びによって、こどもの頃から自分の考えだけでなく、いろいろな人の考え方を尊重する中で、人権に関する感度がより高まってくるように期待したいです。

(柳澤総務部長)

人権教育については、なかなか学校の守備範囲の中だけでは非常に成果を上げるのは難しく、家庭教育の中でどうやって扱っていくか大事になってくると思います。教育委員会として家庭へのアプローチは、なかなか難しいのでしょうか。

(山下教育長)

今回の教育大綱の中の「小中一貫教育の推進」や「対話と協働による学び」に

についても、全て人権教育が基本になってくるという思いがあります。

保護者の皆さんへは学校に来ていただいた際に、校長講話等々でお伝えしたりしたりはしますが、こどもの姿から親御さんに伝えて変わっていつてもらえるような場を、力の限り推進していきたいと思います。また、さきほど表敬訪問のお話がありましたが、いろんな分野で力を発揮した友達を賞賛する気持ちも育てていきたいです。

(柳澤総務部長)

ほかの分野でも結構ですが、いかかでしょうか。

(田中委員)

「施策3 文化財」について、小諸城址懷古園を市指定名勝からまずは県指定へ、最終的には国指定を目指すというところに注目しています。ぜひ、積極的に取り組んでいただきたいと思います。

(柳澤総務部長)

懷古園については、あえて史跡でなく名勝としてあると思います。このあたりはいかかでしょうか。

(安藤教育次長)

通常、お城の跡は史跡ですが、懷古園はなぜ名勝かという、古くから公園化を図るということで小山敬三美術館を始め3記念館があり、そのような文化的な要素も非常に多く文化との共存と考えると、むしろ史跡ではなくて名勝という選択をして今の状態を維持し守っていくという考えのもとで進めたいという思いがあります。

(小泉市長)

ここで教育委員の皆さんにも、榎山奨学財団について知っておいてほしいと思いお話をさせていただきます。オンワード榎山という洋服を扱っている会社があり、その会社の創業者である榎山純三さんが小諸市出身の方です。純三さんは15歳で三越に丁稚奉公に行き、夜学に通いながら非常に苦勞し会社を興し超一流の会社に導いた方です。優秀な子どもたちや学習意欲のある子どもたちを応援しようということで、榎山奨学財団を作った経過があります。小諸市出身ということもあり本市に対してすごく思いが強く、小諸市の子どもたちが大学等に行くときの奨学金として、貸与型でなく給付型の奨学金を設けていただいています。小諸市からそのような偉人が出ており、今でも思いを繋いでくれていて教

育の分野でも応援してくださる方がいらっしゃるということをお知らせしたいと思います。

(柳澤総務部長)

それでは、ほかにはどうですか。どこからでも結構です。

(山下教育長)

市長をはじめ、委員の皆様からたくさんのご意見をいただき、ますます自信が倍增した思いでいっぱいです。小諸市の梅花教育にたとえられる「耐雪梅花麗」「経霜楓葉丹」は、比較的皆さんそらんじていらっしゃるかと思いますが、その先に「もし、この天の真理を知ることができたなら、どうして自分からのほほんとしていられようか」と続きます。それがまさに市長のあいさつにありますけれども、教職員が切磋琢磨する、それから児童・生徒が勉学に励み、また地域住民がそれを支えるという形がこの教育大綱で実現させられると皆さんに感謝しながらお聞きしました

(柳澤総務部長)

ありがとうございました。それでは最後に、この教育大綱を市長が定めることになっていますのでその思いをお願いいたします。

(小泉市長)

3期目に突入し教育大綱をこのような形で改訂ができ、特に学校再編の中でこれまでの学習方法や学校のあり方を変えていくというところに大きなテーマがあり、それに加えて生涯学習やスポーツ、人権同和教育など様々な教育に関わる分野も現状を映し出す鏡として、非常によくまとめられていると思います。まずは小諸市に住んでいる1人でも多くの方々に、この教育大綱に基づいて本市は教育にあたっていて、また移住を考えている方々にも、これが心に響いて移住するなら小諸と思っていただける形になればたいへんありがたいと思います。

教育委員の皆様、教育委員会事務局の皆様にも感謝を申し上げて締めたいと思います。ありがとうございました。

(柳澤総務部長)

それではこれまでの議論をもちまして、この教育大綱(案)の(案)の字を取らせていただき、この教育大綱でいきましょうということにさせていただきますと思いますがよろしいでしょうか。

ありがとうございます。これからはPRや周知をするという手続きに進んで

いければと思います。よろしくお願いいたします。

(2) その他
【議題無し】

4 閉会

以上